

# いざというときのために、地域の防災力を高めましょう

## 自主防災組織とは

災害時、消防などの防災関係機関が到達するまでの間、被害の拡大を防ぎ、生命と財産を守るために地域の人々が力を合わせて活動する組織を、自主防災組織といえます。

自主防災組織は通常、自治会や小学校区の範囲などで組織されます。日光市内では、その多くが自治会単位で組織されています。平成18年4月1日現在、市内には自主防災会と呼ばれる179の自主防災組織があります。

## 自主防災組織の必要性

地震や水害などの災害が発生したとき、消防をはじめとする防災関係機関は総力をあげて防災活動や救助活動にあたります。しかし、大規模な災害が発生した場合、道路の寸断、建物の倒壊、断水や電力・ガスの供給停止、火災などの二次災害が発生する恐れがあり、防災関係機関のみでは十分な対処ができないことが考えられます。そこで、市民一人一人が防災意識を持ち、

普段から災害に備えることが重要です。しかし、個人の力には限界があり、一人で災害に立ち向かうことは危険です。地域の皆さんが防災意識を高く持ち、一丸となって地域防災に取り組むことで、より大きな効果を上げることができま

## 防災備品を配置しました

(財)自治総合センターは、コミュニティ助成事業の一環として、自主防災組織助成事業を行っています。これは、市町村や自主防災組織などが行う、地域の防災活動に必要な施設や設備の整備に関する事業に対して行われる助成事業で、宝くじの事業収入を財源として行われています。

市ではこの助成を受けて、平成17年度中、若杉町自主防災会と清滝自主防災会(日光地域)にテント・発電機・投光器などを、柄倉自主防災会(藤原地域)にヘルメット・発電機を購入しました。

市では今後も自主防災組織の活動・結成への支援を行っていきます。

地震や台風などで災害が発生したとき、私たちの住む地域はどうなるのでしょうか。皆さんは災害への備えをしていますか？  
災害による被害を最小限に抑えるために、地域の防災について考えてみましょう。



柄倉自主防災会に配置されたヘルメットと発電機。宝くじの事業収入を財源とした、自主防災組織助成金で購入しました。



## 地域の手で地域を守る

災害はいつ起きるか分かりません。いざというとき、自分たちの家族やま

ちを自分たちで守るため、自主防災組織を編成し、普段からさまざまな災害に備えた対策や訓練を行いましょ

う。皆さんの手で地域の防災力を高め、災害に強いまちづくりに取り組んでい

きましょう。

## 地籍調査にご協力を

市では、貴重な財産である土地の現況(境界・地目など)を調査するため、地籍調査を実施しています。この調査は、平成13年度から旧日光市で実施されているもので、新市でも引き続き実施します。平成18年度から19年度にかけては、和泉地区の一部(別図参照)で調査を実施します。限られた期間で現地調査し、登記簿と公図に反映させる重要なものですので、皆さんのご協力をお願いいたします。

くわしくは 日光総合支所 農林課  
地籍調査係 ☎(54)1113



平成18年度地籍調査区域